

October 2, 2019

【前日の為替概況】ドル円、9月ISM製造業景気指数と大統領発言で108.47円から107.63円へ

1日のニューヨーク外国為替市場でドル円は5営業日ぶりに反落。終値は107.75円と前営業日NY終値(108.08円)と比べて33銭程度のドル安水準だった。欧州市場では、時間外の日米株価指数先物の上昇などを手掛かりに円売り・ドル買いが出て108.47円と9月19日の高値に面合わせする場面があった。

NY時間に入り9月米ISM製造業景気指数が47.8と予想の50.1を下回り、10年ぶりの低水準を付けたことが分ると円買い・ドル売りが優勢に。トランプ米大統領がツイッターで「米政策金利は高過ぎる。強いドルは米製造業に打撃を与えている」と述べ、FRBを批判するとともに足もとのドル高に対して苦言を呈するとドル安がさらに進み、107.63円と日通し安値を付けた。ダウ平均が一時350ドル超下落し、ナイト・セッションの日経平均先物が310円下げたことも相場の重し。

ユーロドルは反発。終値は1.0933ドルと前営業日NY終値(1.0899ドル)と比べて0.0034ドル程度のユーロ高水準だった。米ISM製造業景気指数が予想を下回り、好況・不況の判断の分かれ目となる基準値の50を割り込むと全般ドル売りが先行。米10年債利回りが一時1.61%台まで低下したこともユーロ買い・ドル売りを促し、一時1.0943ドルと日通し高値を付けた。

欧州市場ではユーロ圏の景気減速懸念を背景とした売りが優勢となり、一時1.0879ドルと2017年5月以来約2年5カ月ぶりの安値を付ける場面があった。

ユーロ円はほぼ横ばい。終値は117.79円と前営業日NY終値(117.80円)と比べて1銭程度のユーロ安水準。19時30分前に118.17円と日通し高値を付けたものの、そのあとは低調な米経済指標をきっかけに株価が下落したため、投資家がリスク回避姿勢を強め円買い・ユーロ売りが優勢になった。23時30分前に117.68円と日通し安値を付けている。NY中盤以降は117円台後半での狭いレンジ取引に終始した。

ポンドドルは乱高下。英国の欧州連合(EU)離脱を巡る不透明感が続く中、23時前に1.2207ドルと日通し安値を付けたものの、米ISM製造業景気指数が低調な内容だったことが分ると一転買い戻しが優勢に。「EUは英離脱問題で争点となっているアイルランド国境問題の解決策『バックストップ(安全策)』について期限設定を検討する用意」との観測報道が伝わると、ブレグジット合意への期待が高まり1.2339ドルまで急伸した。もっとも、EU当局者がこの報道を否定すると1.2260ドル前後まで一転下落した。

【本日の東京為替見通し】ドル円、トランプ米大統領のドル高牽制が上値を抑える展開か

本日の東京市場のドル円は、欧米中日の景気減速懸念やトランプ米大統領のドル高牽制発言を受けて上値が重い展開が予想される。

昨日発表された9月調査の日銀短観では、大企業・製造業の業況判断は+5となり、3四半期連続で悪化し、2019年度想定為替レートが108.68円となり、6月の109.35円から円高・ドル安水準となった。年末に向けてドル円相場が108.68円以上になれば、本邦輸出企業からのドル売り圧力が強まることになる。

一方で、世界最大の年金基金、年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)は、2019年度の運用計画を変更し、外債投資が拡大することで円安要因となった。GPIFは、為替差損の回避措置(ヘッジ)を講じた外国債券について、乖離許容幅の上限が近づいている外債の資産構成割合ではなく、国内債券に算入すると発表した。6月末の時点の外国債券の運用残高は、29兆30億円で、18.05%と乖離許容幅の上限である19%に近づいていたが、今回の変更により、外債投資が拡大することになる。しかしながら、ヘッジ無しの外債投資は、ドル円が100円を割り込んだ場合、ヘッジ売りの必要性が高まることで、円高加速要因となる。

ドル円のテクニカル分析では、9月18日高値108.48円と19日高値108.47円で、「ツーデイ・リバーサル」「抱き線(アウトサイド・デイ)」を示現して、4手連続陰線で反落、一目・雲が支持帯となり、4手連続陽線で反発したものの、1日は高値108.47円まで続伸した後に「抱き線(アウトサイド・デイ)」で反落しており、トリプル・トップを形成している。すなわち、今年の高値112.40円から安値104.46円までの下落幅の半値戻し水準108.43円が攻防の分岐点となっている。

トランプ米大統領は、「米政策金利は高過ぎる。強いドルは米製造業に打撃を与えている」とドル高牽制をしており、10月10-11日の第13回米中通商協議や11月13日が期限の「米国通商拡大法232条」による対欧州・日本への自動車関税引き上げへの警戒感がドルの上値を抑えることになる。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:50 ◇ 9月マネタリーベース
- 14:00 ◇ 9月消費動向調査（消費者態度指数 一般世帯、予想：36.5）

<海外>

- 15:30 ◎ 9月スイス消費者物価指数（CPI、予想：前月比0.1%）
- 17:30 ◎ 9月英建設業購買担当者景気指数（PMI、予想：45.0）
- 未定 ◎ ポーランド中銀、政策金利発表（予想：1.50%で据え置き）
- 20:00 ◇ MBA住宅ローン申請指数
- 21:00 ◎ バーキン米リッチモンド連銀総裁、講演
- 21:15 ☆ 9月ADP全米雇用報告（予想：14.0万人）
- 22:00 ☆ 4-6月期ロシア国内総生産（GDP）確報値（予想：前年比0.8%）
- 22:00 ◎ ハーカー米フィラデルフィア連銀総裁、講演
- 23:30 ◇ EIA週間在庫統計
- 23:50 ◎ ウィリアムズ米ニューヨーク連銀総裁、講演
- 中国（国慶節）、インド（マハトマ・ガンジー生誕日）、休場

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

1 日 13:30 豪準備銀行(RBA)声明

「労働市場を含めた動向を監視し、経済の持続的成長と完全雇用、長期にわたるインフレ目標の達成を支援するために必要であればさらなる金融緩和を行う用意がある」

「労働需要の先行指標は雇用の伸びが鈍化することを示唆している」

「失業率は数カ月に渡って 5.25%を依然として維持している」

「豪ドルは最近では最も低い水準」

「今年上半期の経済成長率が 2018 年下半年期よりやや高くなったことで、緩やかな転換点を迎えたようだ」

「インフレ圧力は依然として抑制されており、しばらく続く可能性が高い」

「インフレは 2020 年にかけて 2%を若干下回り、2021 年にかけて 2%を若干上回ると予想」

1 日 16:10 ジョンソン英首相

「EU へのブレグジット提案はまだ作られていない」

「バックストップの排除を一番に望む」

「政治宣言の変更を希望」

「英政府はこれまでも重要な要望を述べてきた」

「アイルランド全体の市場の統一を保護する方法はある」

1 日 17:24 エバンズ米シカゴ連銀総裁

「FRB は金利を引き下げた後、しばらくの間政策を据え置くべき」

「米金融政策はリスクに備えて一定の再調整が必要」

「米経済のファンダメンタルズは堅調」

1 日 18:13 世界貿易機関(WTO)

「20 年貿易量予測は 2.7%増へ下方修正(前回予測 3.0%増)」

「通商摩擦が落ち着かない限り、下向きリスクは高い」

「無秩序ブレグジットは欧州を中心に大きな影響を与える」

1 日 18:25 ロウ RBA 総裁

「雇用やインフレの進展は求めているよりも遅い」

「本日の利下げが助けになるだろう」

1 日 19:27 英政府高官

「数日以内に EU 離脱相が離脱プランの詳細を明らかにするだろう」

「プランにはアイルランド国境から 5-10 マイル離れた通関センターの設置要求は含まれない」

1 日 21:45 エルドアン・トルコ大統領

「シリア内の安全地帯の設置を自分達で進め、200 万人のシリア難民の移住を目指す」

1 日 23:37 トランプ米大統領

「ドルは強すぎる。FRB の金利は高すぎる」

2 日 00:07 ポンペオ米 국무長官

「(下院委員会の録音記録提出について)極秘情報であり、行政府の特権事項だ」

2 日 02:06 ジャビッド英財務相

「制御をしながら支出をするに気を付けることが必要」

2 日 02:09 ドラギ ECB 総裁

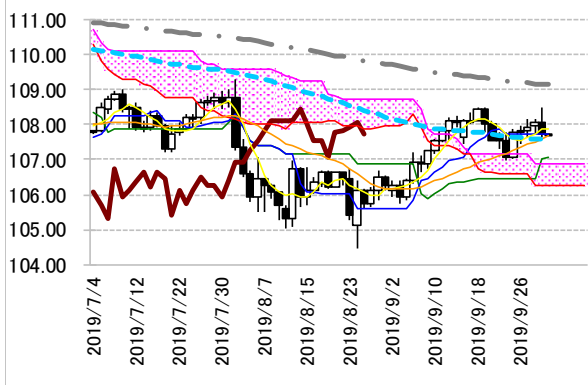
「タイムリーで効果的な政策措置が重要」

「単一通貨は今まで以上に人気」

「財政政策により金融刺激策の必要性を下げるができる」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

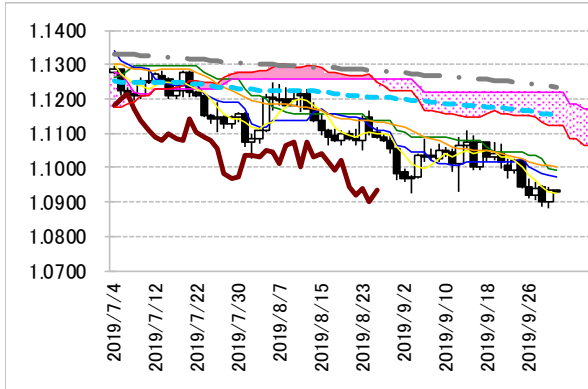


<ドル円=9/18 高値 108.48 円を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の上で引けていることで、三役好転の強い買いシグナルが点灯中。しかし、108.47円まで反発した後に抱き線で反落しており、トリプル・トップ(108.48円・108.47円・108.47円)の可能性が示唆された。

本日は、転換線 107.72 円を念頭に、9月18日高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上回れば手仕舞い。

レジスタンス 1	108.48(9/18 高値)
前日終値	107.75
サポート 1	107.07(日足一目均衡表・基準線)
サポート 2	106.89(日足一目均衡表・雲の上限)

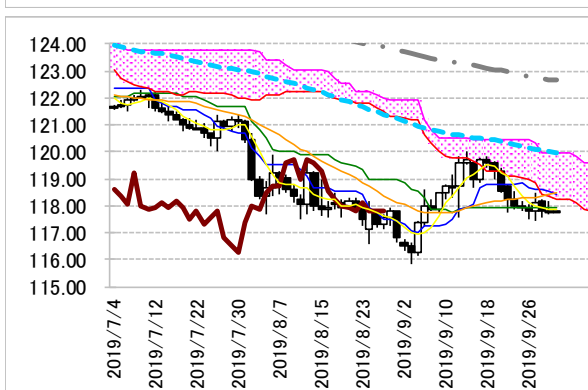


<ユーロドル=10/1 安値を支持に押し目買いスタンス>

陽線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかし、底値圏での孕み線で反発の可能性が示唆されている。

本日は、10月1日安値を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.0974(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.0933
サポート 1	1.0879(10/1 安値)

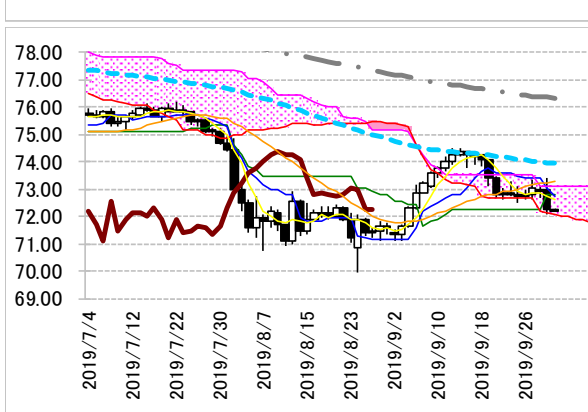


<ユーロ円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

寄り引同事線引け。一目・転換線は一目・基準線を上回り、遅行スパンは実線を上回り、雲の下で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。しかしながら、雲の手前で寄り引同事線が示現し、転換線の下で引けていることで続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	118.42(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	117.79
サポート 1	117.28(9/5 安値)



<豪ドル円=転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回っているものの、遅行スパンは実線を上回り、雲の中で引けていることで、買いシグナルが優勢な展開となっている。しかしながら、2手連続陰線で雲の下抜けの可能性が高まりつつあり、下落トレンド再開が示唆されている。

本日は、雲の下限 72.04 円を念頭に置き、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	72.75(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	72.24
サポート 1	71.10(9/3 安値)

